

2015(平成27)年5月14日

館外講座だより22



第35回目となるバスツアーは、日光火山群の一角にある稲荷川の砂防堰堤群を訪れました。世界遺産となった東照宮の東側を流れる稲荷川は、古い火山体である赤薙山や女峰山から流れ出ます。上流部に大崩壊地があるため、稲荷川は水害と土砂災害を繰り返してきました。現在の日光の町は、1662(寛文2)年の土砂災害後に建設されたものです。日光砂防事務所では、日夜行われている砂防事業の実態を学びました。過酷な自然との相克の中で建設された日向砂防ダムの威容と、数々の砂防堰堤群から、永年にわたる人間の叡智と自然災害の現状を実感してください。

みなさんのアンケートから 女性○、男性●、(参加回数)です。

◆国土交通省日光砂防事務所

- 大変熱心な説明をして下さって感謝しています。危険な現場を管理なさっていること、改めて驚きました(2回目、他多数)
- 日光付近の砂防の状況がよくわかってよかった。稲荷川と大谷川の斜め写真が圧巻であった(6回目)
- 立派な資料にわかりやすいスライドと説明とでとてもよかったです(4回目、他多数)
- 以前山留の仕事をしていた。災害が起こってから直すのは大変。養生することの大切さを実感した(4回目)
- 砂防堰堤の4つの役割・目的を知ることができました。特に土砂を溜める→勾配をゆるくする、両方の壁を守る…知りませんでした(3回目)
- 事務所の場所が昔日光の街であり、土砂で街が壊滅し、今の町並に移動した事を知りびっくり(10回目)
- 土砂災害を学び、自然との相克を知る事ができました(4回目)
- ①砂防堰堤を単に「砂防」と考えていたが、明確に4つの効果があること、②砂防事業が堰堤で土石流を災害を防ぐのみではなく、山腹、緑化事業もしている事、③河の本流が入ってくる支流に床固の堤を作る事、等多くを知ることが出来た(13回目)
- 住民の命と財産、また貴重な文化遺産を守るために努力されていることがわかりました(10回目)
- 立派なパンフレットをたくさんありがとう。うちでゆっくり復習します(6回目)
- 上から立ち割る武器は「鉞」。横に払うのが「薙刀」。赤薙山頂から流れ下る土石流は、まさに周囲を薙倒していったか(4回目)



調査課長 竹歳健治さんからご説明をいただきました！昨年12月の下見から大変お世話になりました。



山道を登ってくれたバス



車窓からみる大谷川床固群

◆郷土センター・町並み

- 歴史と災害の平行した展示がわかりやすかった(2回目、他多数)
- 砂防堰堤の成り立ち模型を操作してみて、より堰堤機能を理解する事が出来た(13回目、他多数)
- 日光道中の最終宿「鉢石宿」だと思つと、どこかロマンが感じられる(19回目)
- 300年以上の木の切株や、弥生祭りの山車(ホコリでちょっと残念)など楽しみました(4回目)
- 平日のせいか静かな町並でした(10回目、他多数)

◆日向砂防堰堤展望台

- 大浦所長の熱のこもった説明に感激しましたが、ハラハラ・ヒヤヒヤで聞きました (22 回目)
- ダムの威容におどろきました。建設の人は大変な仕事です (4 回目)
- すばらしい景観と裏腹に防災の努力がある事が解りました (2 回目)
- 現場のリアル感と薙の様子にびっくりした (5 回目)
- 奥まで案内していただき、目の前の女峰山の崩壊が真にせまって実感出来、山は動いているなど感動 (10 回目)
- 防災に日々努力していることが、現場（現地）を見ることで感銘を受けました (2 回目)
- その大きさが遠くなので判断出来なかった (2 回目)
- まず女峰・赤薙山の自然崩落？ 土砂くずれ？で、日光市街の災害を知りました。たかが砂防ダム…、されど堰堤→その大切さ、役割を学ぶことが出来ました。人間の英知に感激しました。対応してくれ国交省の皆さんに感謝しています (? 回目)
- あれだけ大きなものがあったとは驚きました。メンテナンスも大変だろうと…(2 回目)
- 展望台からの、ながめ、すばらしかった。山からの土石流を受けとめるための大きな堰堤。はじめは 13.6 m の高さ、現在は 46m とか、永遠にかさあげされるのでしょうか (10? 回目)
- 5 階級の砂防は感動。人と知恵と行動力。先人の人々の力を感じ現代に生きる人を見守っている様な (5 回目)
- まずは大きさにビックリ。次に全容は見えないものの、山の崩落の激しさに恐さを感じ、溜った砂利の美しさにうっとり (13 回目)
- あらたうと 青葉 若葉の 日の光 芭蕉、残念。その 1 枝が展望を妨げていた (4 回目)



砂防とは 築く築けど 終りなき
みどりもえ 水の流れも (ずかなり) 稲荷川の砂防堰

土砂溜めて 人家を守る 堰堤群！
 眼に涼し つばくろの翔ぶ 稲荷川
 砂防光る 稲荷川流るる 山つづき
 そよ風や 木々の間に間に 稲荷川
 新緑に 故事をしのびて 稲荷川
 新緑に 陽光やさし 五月晴

TOUR DATA		
時間	経過	滞在時間
7:36	博物館出発	
7:53	四つ木IC	
8:47	佐野SA	15分
9:35	宇都宮IC	
9:55	日光IC	
10:00	砂防事務所	70分
11:20	郷土センター	80分
13:15	稲荷川	110分
15:20	日光IC	
15:25	日光口PA	10分
15:55	宇都宮IC	
16:30	羽生PA	30分
17:48	四つ木IC	15分
18:05	博物館着	

内山観光バス(24人乗・2台)
 ①西谷俊次 ②高橋昌也さん
 走行距離:347 km(倍率1.2倍)
 応募53名、当日参加44名
 参加費4700円

日向（ひなた）砂防堰堤



大浦さんありがとうございます！



◆稲荷川砂防堰堤群

○短い間隔にあれば堰堤を造り続け、管理をし続けた人々の労を思いました。大きな落石を見るにつけ、堰堤の無かった時代の下流の人々の苦労が思いやられました。二段、三段と続けて高さを保った事、スリット等を間に入れた造り、一番良かったです（？回目）

●自然と人間の攻防を見て、人々の知恵と努力と自然との攻めぎ合いを感じる（13回目）

○日光砂防事務所の説明は受けましたが、やはり実際にみると、自然の災害に対し、永年に渡り、人々が生活を守る為に、砂防堰堤をつくり守ってきたところを確認できて良かったです（4回目）

●砂防事務所の担当者にはよく説明していただき、充実した見学が出来た。堰堤上のRの構造など、行かないとわからなかった（6回目）

○水を制する取組、こうして私達は守られているのだと感謝・感謝です（10回目）

○大正時代に造られたとはびっくりです。砂防ダムを今回のように全体的に見た事がなかったので、砂防ダムとはどういう物かよくわからなかったけど、ようやく今度の事でわかり、大変面白かったです（4回目）

●文化財を散策しながらの砂防堰堤は、大正・昭和の技術や苦労をしのぶことができた（13回目）

○日光の裏側が先人達から現在まで時代の技術を駆使して作られていることを見る事が出来て良かったです（10回目）

○川の音、風の音、人の熱い声等々、天の国にいる人々の話し声等々、奇

妙な一日でした？ 人間ばんざい（5回目）

●未来の会話。子供「大きな階段だね」、大人「昔の日本人は巨人だったんだね」（4回目）

◆その他・自由欄

●戦国時代から川廻しの治水や水運が発達し、国土の保全が時代とともに変化して、砂防工事の推移を今回研修できて、大変幸せでした。又天候に恵まれ最高でした（5回目）

●普段災害に対し（特に砂防など）、気に止めていませんが、改めて携わっている関係者の努力等に、感謝に気持ちがわきました。また、次の機会も参加したいと思います（2回目）

●江戸の「鬼門」にあたるから、日光東照宮を造ったわけでは無い。しからば久能山東照宮はどうなるか。西国、東国の大名の抑えに造ったのである。エッヘン（4回目）

○事前学習の内容をお供に日光へ。自然は地形となって記憶されるのだと実感（19回目）

●昨年通過した羽生PAに寄って満足（4回目）

○日光火山って、急峻でくずれやすい山だということを知った（6回目）



全員そろわず、ごめんなさい！

ツアー後記

2010年11月、この砂防堰堤群を目にした時の感動は今でも衝撃として残っています。みなさんにお見せしたい！！…。5年越しの想いは、日光砂防事務所のみなさま、山道走行が可能なバスを手配していただいた内山観光さんのお力添えで叶いました。世界遺産・日光の背後に、砂を吐き出す川と闘う人々がいて、私達が護られていることを、再認識できました。終日ご案内いただいた日光砂防事務所のみなさまに、心から厚く御礼申し上げます。

担当学芸員 橋本直子 補助 学芸員 永越信吾
博物館専門調査員 勝田真幸



葛飾区郷土と天文の博物館
〒125-0063 東京都葛飾区白鳥3-25-1
TEL 03(3838)1101 <http://www.city.katsushika.lg.jp/museum/>

